

### 3 わが国におけるタマネギの生産、流通状況

#### 1 栽培の動向

わが国におけるタマネギ栽培は、春まき栽培と秋まき栽培の2作型である。

春まきは、北海道で、秋まきは、本州、四国、九州などの府県で行われている。

栽培面積の変化は図1に示したように、3万ha程度で推移してきたが、近年微減傾向にある。秋まき栽培は、兵庫県、佐賀県の栽培面積が大きいが、兵庫県ではやや減少傾向である。これまで大きな産地であった大阪府、和歌山県、愛知県、香川県などは、農地の宅地化、後継者不足などで栽培面積が激減した。逆に、春まき栽培の北海道の栽培面積が増大し、平成8年では、北海道が12,400haと栽培面積の約1/2を占めるようになってきた。

#### 2 生産状況

北海道産地は、は種から収穫、調整まで機械化され、大規模な栽培がされている。セル成型苗の全自動移植機を導入し、移植の省力化が図られ、平成9

年には栽培面積の55%に普及している。

兵庫県では、歩行式の収穫機が近年急速に普及し、現在移植機が開発されつつあり、機械化体系の確立が急がれている。

#### 3 出荷、流通の状況

兵庫県の産地では、4月～6月に収穫され風乾貯蔵、冷蔵を行ってほぼ周年京阪神市場を中心に出荷している。北海道は9月に収穫し、収穫後から翌年4月まで全国の市場に出荷している。これらのことは、図2の大阪市場の入荷状況から伺うことができる。一方、東京市場では、4月～8月は秋まき栽培の産地のもの、9月～3月は北海道産と輸入物と産地のすみ分けが進んでいる。

北海道の新しい動きとして、秋まき栽培の研究が進み、8月上旬からの収穫が可能となりつつある。この作型開発により、さらに府県産の秋まき産地との競合が予想される。

大西 忠男 (中央農技・園芸部)

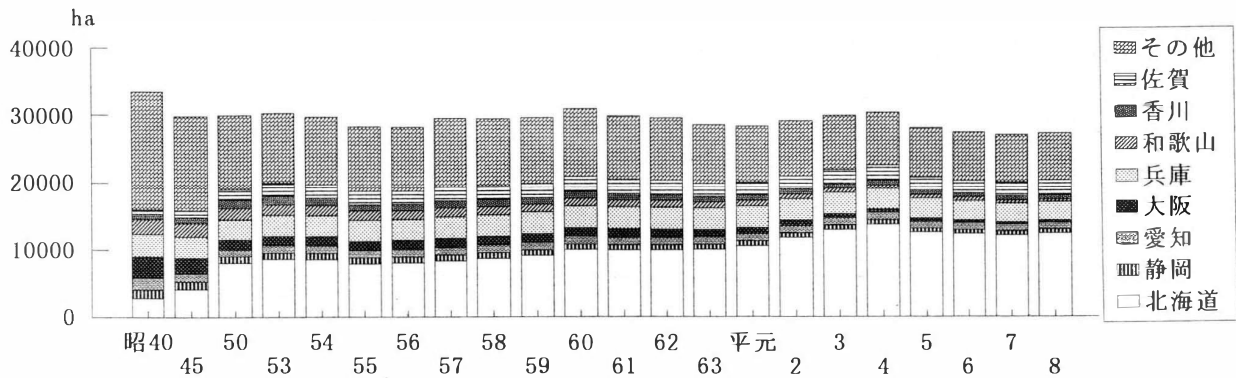


図1 産地別栽培面積の変化

資料：農林水産省野菜生産出荷統計

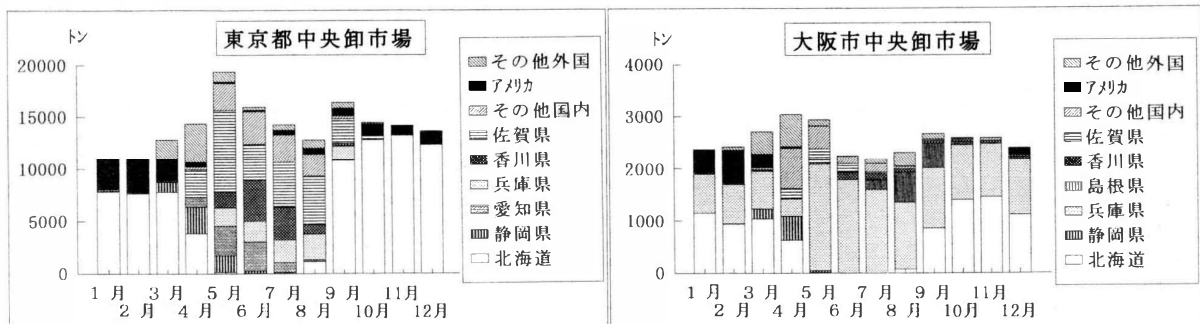


図2 東京都・大阪市中央卸売市場の産地別入荷状況 (平成7年)

資料：東京都・大阪市中央卸売市場年報